

# フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

今日は、国民の祝日「昭和の日」。昭和では「天皇誕生日」、平成で「みどりの日」と変遷している日でもある。大型連休の話題も

随所から伝わってくる。例年だと身吹いた若葉の新緑が目眩しい時期だが、新緑の風情寂しい今年は、逆に里に咲き誇る桜や可憐な草花が目立つ。ウクライナ侵攻を起因とした世界経済の混乱から諸物価が高騰し続けている。奈良に住む信州大学大学院の恩師である下田平裕身さんからの便りの中でロシアのウクライナ侵攻について「歴史をたどってみると、今のロシアのウクライナ侵攻が単にプーチン個人の暴虐性、専制主義だけでは済まず、西欧世界とスラブ世界とは、相

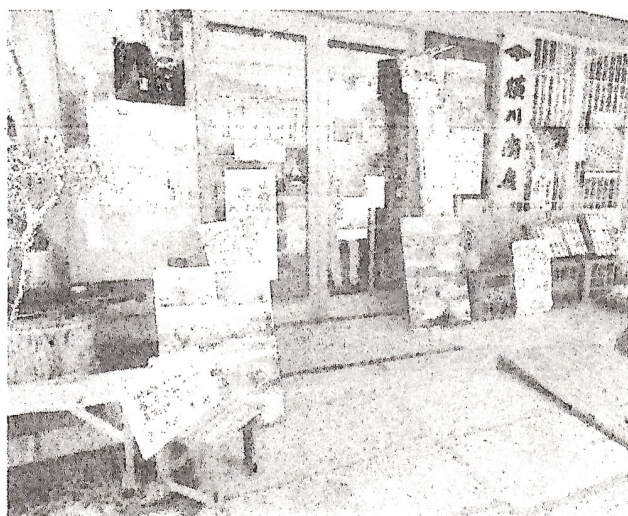
いれない、お互いに共感を持ちたい異質さをほらんでいるような印象が強い」「帝政ロシア時代のロシアの誇張、ロシア革命からソ連邦の形成、ソ連の解体と東・中欧の再編のせめぎ合い」「ロシア

## 人口減少社会での地域社会のあり方は

情報社会から一方的に伝わってくる内容が本心に正しいのか判断できる近代史を改めて学び続けなくてはと考へさせられる。総務省が15日に昨年10月1日時点の人口推計で前年比64万4000人減の1億2550万2000人となり減少幅が過去最大と公表した。65歳以上の高齢者人口は全体の28・9%と過去最大、働き手の中心となる生産年齢の割合は過去最低の59・4%、出生率は

前年より4万人減の83万1000人で、出生児数が死亡者数を下回る「自然減」は15年連続だ。人口減少社会は必ず直面する社会現象でもある。「今まで通り」と変化を望まない思考で社会活動を継続する事が困難な時代でもある。社会資本や既存施設を維持する事さえ困難な社会では、地域住民が拠り所になっている地域施設や多くの宗教施設の維持管理ができなくなる事は避けられないはずだ。地域集会所の行政的位置付けによる公費管理や管理困難な文化財的な価値の

ある施設などの継続的な管理体制について、住民皆が真摯に議論を積み重ねて、この時代に生きる自覚を持つべきなのだろう。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



大町市内の横川商店、郷土愛溢れた写真の展示が素敵だ